

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	村上市立村上第一中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	2	13	26
生徒数	101	128	137	3	369	

研究の概要

1. 研究主題

意欲的に学習に取り組む生徒の育成
 ~自ら考える力を育てる教師の支援と評価の工夫~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1 年 数学（3クラスを4コースに編成）
 小6時にも習熟度別学習を経験しており、学習形態に慣れている。さらに、入学当初から、習熟度別による個に応じた指導で基礎・基本を確実に身につけさせる。
- ・ 2 年 数学（2クラスずつをそれぞれ3コースに編成）
 学習内容が難しくなり、学力差が表れやすい数学で習熟度別学習を行い、生徒の学力実態にあった授業の展開を図る。
- ・ 3 年 数学（2クラスずつをそれぞれ3コースに編成）
 昨年度から習熟度別学習を実施しており、さらに学習内容が難しくなる中、進路実現に向けても、実態に応じたきめ細かな支援をする。
- ・ 1 年 英語（3クラスを3コースに編成）
 学習の初期にコースを分けることで、その後の理解の差を減らす。（10月から実施）
- ・ 2 年 英語（2クラスずつをそれぞれ3コースに編成）
 個々の理解度に合わせたコース設定を行い、実態に応じた指導を展開する。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 習熟度別指導における問題点と課題の明確化 研究の見通し（仮説） コース設定から評価まで実際の習熟度別指導における問題点を探り、課題を明確にすることで、より効果的な指導を展開することができるようになるであろう。</p> <p>研究内容・方法 小学校の算数の習熟度別指導と連携し、中学校での数学の習熟度別指導の在り方を探る。 習熟度別のコース編成に伴う問題点を洗い出し、実践を通じた課題の提言をする。</p>
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 諸検査の分析による実態把握を基にした指導法、指導形態、評価に関する実践研究 仮説 1年次の成果と課題を基に、習熟度別の指導方法をコース別に検討し、実践していくことによって、生徒の学習に対する意欲が高まり、基礎学力の着実な定着へとつながっていくであろう。（より具体的な表現に変更） 研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科で一人一人の良さを認める多様な指導の在り方を工夫。 ・N R Tの結果を生かし、習熟度別の学習集団に応じた指導方法を工夫。 ・小学校との連携による指導法に関する実践研究の継続
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 個々のデータ追跡からコース別の指導方法を検証し、コース別に有効な指導方法を確立する（実践研究事例のまとめと発信・普及） 仮説 N R T等の諸検査のデータを基に、コース別にこれまでの指導方法の在り方を検証し、実践を重ねることで、習熟度別学習の効果的な方法が確立できるであろう。（実践事例の集積とその普及） 研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度中2生徒、小6児童のN R T結果の推移（小学校との連携）から、コース別に指導方法の有効性を検証する。 ・コース別に有効な指導方法、指導計画を実践研究事例とともにまとめ、提案し、他の小・中学校への発信、普及を進める。
----------------	--

(3) 研究推進体制

委員会組織	委員長	校長	副委員長	教頭
	渉外主任	教務	委員	学習指導、研究、数学科主任 英語科主任（今年度から）

平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

<p>(1) 今年度の具体的実践事項 N R Tの数値分析を基に習熟度コース別に「目標値」を設定した。 昨年度の反省を基に、コース別に内容や使う教材、単元構想（時間配分など）に特徴をもたせた。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>基本コース・・・基礎基本の定着（教科書内容の基礎基本を重点的に学習する） 教科書＋ワークA問題＋基礎学力定着のためのプリント</p> <p>標準コース・・・基礎基本の定着（教科書範囲の学習を中心とする） 教科書＋ワークA，B問題＋繰り返し学習プリント</p> <p>発展コース・・・発展的な内容の定着（教科書の内容を確実に定着させた上で、発展的な内容を多く取り上げる） 教科書＋ワークC問題＋発展問題プリント</p> </div> <p>コース別の指導計画を作成し、有効な指導方法を盛り込んだ。 小学校との連携として指導検討会を設け、年間指導計画を交換し、指導に生かした。 その他 ・英語科でも習熟度別学習を始めた。（成果等は来年度） ・各教科で「学力向上プラン」を作成し、個に応じた指導を充実させた。</p>

(2) データ分析

生徒向けアンケート結果（昨年度から習熟度別を実施している3年生での比較）

質問「習熟度別学習になって、学習は分かりやすくなりましたか」

3年生	実施月	はい	どちらでもない	いいえ
アルキメデス（基本）	H15.2	57.7%	3.0%	39.3%
	H15.10	53.3%	40.0%	6.7%
ガウス（標準）	H15.2	26.8%	24.4%	48.8%
	H15.10	19.2%	71.2%	3.8%
ニュートン（発展）	H15.2	31.4%	20.0%	48.6%
	H15.10	75.7%	18.9%	2.7%

各コースにおいて、「いいえ」と答える生徒が激減している。

発展コースにおいては「はい」と答える生徒が急増している。

定期テスト、観点別評価の結果（3年生 前年度との比較）

- ・定期テスト平均点 基本コース・・・+ 5.5点
標準コース・・・+ 11.8点
発展コース・・・+ 9.6点

観点別評価	コース	数学的な考え		表現・処理		知識・理解	
基本	A	0%	0%	2%	12%	28%	14%
	B	14	21	33	33	43	70
	C	67	55	45	36	12	6
標準	A	9	28	33	53	67	57
	B	47	55	55	41	31	43
	C	45	3	12	5	2	0
発展	A	19	76	81	89	92	92
	B	65	22	16	11	5	8
	C	16	3	3	0	3	0

各コースで平均点の上昇がみられる。

基本コースで「表現処理」「知識理解」のCの減少、

発展コースの「数学的な考え方」でAの増加がみられる。

(3) 成果

- ・アンケート結果から、今年度のコースの授業内容に対して、生徒はおおむね満足している様子がみえる。昨年度の反省から、生徒がコース選択の際に望んだ授業と実際に我々が実施した授業との間にギャップがあることがあげられた。これを解消するため取り組んだ「コース別に明確に特徴を持たせた授業展開」が有効に機能し、生徒にも満足感が生まれていることがわかる。
- ・それに伴って、基本コースでは基礎学力となる「表現処理」や「知識理解」の観点で、Cの生徒が減少し、発展コースでは「数学的な見方、考え方」でAの生徒の増加がみられた。それぞれのコースの生徒の実態を分析し、コースごとに目標を明確にして授業展開の方法を検討して進めてきたことが効果的であったと考えられる。

2. 今後の課題

- ・今後行うNRTなどの諸検査を基に、個々のデータ追跡から、今年度行ったコース別の指導方法が有効に働いているかをさらに細かく分析する必要がある。それを受けて来年度に向けて、コース別に指導方法の検討を行う。
- ・コース別に特色をもたせた指導をさらに進め、単元別の指導計画をコース別に作成していくことで、実践・検証の継続、積み重ねができ、より有効な指導方法を確立させていくことができる。(教科経営からコース経営へ・実践事例の集積)
- ・研究の成果(コース別に有効な指導方法)をさらに他校へ普及していく必要がある。そのために、研究会の内容の工夫、HPの更新、フロンティア事業や学力向上にかかわる「たよりの」の配布などに取り組む。
- ・数学科での実践の成果を英語科にも波及させ、英語科における習熟度別学習の研究を推進し、教科の実態に応じた指導方法を確立させていく。
- ・小中連携をさらに進め、9年間を通しての学力向上を考えていく必要がある。指導検討会を定期的に設ける中で、指導計画の中から重点事項を話し合い、つながりのある指導に取り組んでいく。

学力把握のための学校としての取組

- ・定期的なNRT学力検査の実施(5教科4月、2月 年二回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究会、説明会等の開催実績及び開催予定
中間発表会 平成15年11月5日(於、村上第一中学校)
テーマ 習熟度別学習におけるコース別に有効な指導法、指導形態
対象 村上・岩船地域小中学校、県内フロンティアスクール校
- ・HP作成等の工夫の実績及び今後の予定
HP作成(今年度中にup予定)

-
- 【新規校・継続校】 √ 14年度からの継続校
 - 【学校規模】 √ 13～15学級
 - 【指導体制】 √ 少人数指導
 - 【研究教科】 √ 数学
√ 外国語
 - 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 √ 有